

会費・募金へのご協力
ありがとうございました

令和元年度もみなさまの厚いご協力とあたたかいお気持ちを頂戴し、心より感謝いたします。
みなさまから寄せられた会費・募金は、今後も港南区の地域活動を支援していくため有効に活用してまいります。

平成 30 年度 赤い羽根共同募金・ 年末たすけあい募金のご報告



平成 30 年度の共同募金のつかいみち

17,974,090 円 (赤い羽根 13,505,890 円
年末たすけあい 4,468,200 円)

1. 身近な地域の見守り・助け合い事業へ 3,000,000 円
●区内 15 地区社会福祉協議会 (ひとり暮らし高齢者の見守り訪問・サロン活動・給食会、ご近所支援マップ作成、地域のちいさなお困りごとへの支援など)

2. 高齢 障がいのある方・子どもたちへ 8,488,200 円
●ひとり暮らし高齢者などへの配食サービス
●地域交流・居場所づくり (異世代交流活動、不登校・ひきこもり支援)
●家事・介護の支援、外出介助、見守り活動など非営利活動
●子育て支援 ●障がい児者の余暇支援活動・訓練会

3. 社会福祉施設の大型備品整備へ 3,930,000 円
●区内保育園 プール設備事業
●区内作業所 送迎用車両購入事業

4. 区社会福祉協議会事業へ 1,262,618 円
●区社協だよりの発行 ●災害見舞金の支給
●低所得者への旅費等支援費 ●ひまわりホルダーの作成 など

5. 県内の福祉施設・団体へ 1,293,272 円

活用の一例

地域活動支援センター おもろ



受注作業



外出余暇活動



社会福祉法人 横浜市港南区社会福祉協議会 (港南区社協ボランティアセンター)

〒233-0003 港南区港南 4-2-8 3 階 (そよかぜの家 3 階)
TEL : 045-841-0256 FAX : 045-846-4117
URL : <http://www.kounan-shakyo.jp/> E-mail : toiawase@kounan-shakyo.jp

編集 後記

特集のどんな内容で区民の皆様に伝えることができるか心配でしたが、編集委員のみなと意見を出し合い編集をしました。地域で困っている人に手を差し伸べ支えてくれる人達がいる、優しい港南区であることが伝えられたら嬉しいです。(O.T)

港南区社会福祉協議会広報委員 木島 勝吉 平川 陽子 大和田 高道 福島 康弘 竹園 幸子 野間 肇 稲葉 幾代 萱畑 佳代子

○この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分金により作成しています。
○港南区社会福祉協議会では、事業計画・報告並びに収支予算・決算についてホームページに掲載しております。また冊子をご希望の方は事務局までご連絡ください。
○「社協だよりこうなん」音声訳版 (テープ・CD) もボランティアグループ「港南音訳ボランティアいってんわ」の協力により作成しています。
ご希望の方は港南区社会福祉協議会までご連絡ください。

港南区社協 善意銀行 (通年受付)

港南区の高齢者・障がい者をはじめとする様々な方を支援するため有効に活用しています。

(平成 30 年 11 月 6 日～令和元年 11 月 7 日受付分)

【善意銀行寄付金】 653,466 円

◎寄付者一覧 (順不同・敬称略) (令和元年 11 月 7 日現在)

①手作りおやつ工房とさか ②港南区民謡民舞連合会 会長 西條和夫
③御園生和彦 ④D ステーション上永谷店 ⑤横浜市女性団体連絡会
⑥司法書士 岩屋口智栄 ⑦野庭住宅地区社会福祉協議会
⑧明るい社会づくり港南区協議会 ⑨平成 31 年度港南区消防出初式
実行委員会 ⑩中央労働金庫杉田支店推進幹事会 ⑪パークコリーナ
自治会 ⑫上大岡芸能友の会 会長 北見政喜 ⑬橋本弘子 ⑭株式会社
千歳観光 ⑮株式会社 清光社 ⑯イトーヨーカドー労働組合食品館
上大岡支部 ⑰下永谷地区社会福祉協議会 ⑱港南区芸能連合会
ほか匿名寄付者 11 名

令和元年度 日本赤十字社会費募集運動 (令和元年 5 月～)

国内外の救援活動や区内の救急法講習会の開催、地域福祉活動支援、罹災世帯への災害見舞金にあてられます。

【会費】11,095,661 円 (令和元年 11 月 7 日現在)

「社協だよりこうなん」の広告を募集します!

「社協だよりこうなん」は、港南区民を主な対象とした地域福祉の広報誌です。毎号 85,000 部を発行し、港南区にお住まいの方に配布されるほか、港南区内にある関係施設や P R ボックス等にも置かれています。詳細はお問い合わせください。

お問い合わせ・お申し込みは

社会福祉法人 横浜市港南区社会福祉協議会まで

配布先

自治会町内会、区社協会員団体、地域ケアプラザ、区役所、横浜市社協



社協だより

KoNan

No. 74
Dec. 2019

ボランティアセンター通信合併号

【特集①】ささえあう港南

この街がさやちゃんをサポートしてくれています

中面へ



横浜市立
港南台ひの
特別支援学校を
取材しました!

「最近では地域のつながりが希薄になっている…」そんな言葉をよく耳にします。

しかし港南区には、地域住民がささえあい、自分らしく暮らせる地域社会をみんなで作ります、そんな力があります。そのひとつが、地区社会福祉協議会が実施する福祉ネットワーク事業です。港南区内では 15 地区すべての地域で展開されており、横浜市内では先駆的といえる活動です。

今回の特集では、このような港南区の街を選び、地域のみなさんとともにささえあいながら暮らしている親子を紹介します。

【特集②】ひとりをささえる仕組み 福祉ネットワーク 中面へ

前号に引き続き福祉ネットワーク事業を取り上げます。9 地区の中から、今回は上大岡地区・日下地区の 2 つの地区をピックアップして紹介します。



社協だより こうなん 第 74 号

■発行 / 社会福祉法人 横浜市港南区社会福祉協議会 ■発行責任者 / 木村 妙子 ■発行日 / 令和元年 12 月

特集① ささえあう港南 この街がさやちゃんをサポートしてくれています

彩花さん（以下呼名 さやちゃん）は、現在港南台ひの特別支援学校の高校生です。レット症候群（※1）という障害をもつ、さやちゃんはお母さんと暮らしています。

さやちゃん親子と社会福祉協議会がつながったきっかけは、制度の狭間による悩みからでした。

さやちゃんは障害により自宅に一人でいることが難しく、お母さんの仕事の帰宅時間まではヘルパーの介助を受けています。ヘルパーの活動内容には基準があり、基準外の内容は制度の対象には該当せず自費サービスを利用するしか方法がありませんでした。しかし、自費での利用にも限界がありました。



お母さんとさやちゃん

当時の状況をお母さんは「ヘルパーの時間が終わってから私の仕事の帰宅時間までにできる、たった 30 分の隙間…。その隙間に本当に悩みました。」と話します。

そのお母さんの悩みに港南台地区社会福祉協議会がさやちゃんの見守りを引き受けました。福祉ネットワーク事務局長の大和田さんは、引き受けた想いについて「そんな時の見守りが、福祉ネットワーク事業が目指す活動なんです。」と話します。

その想いに対しお母さんは、「本当に感動しました。光が見えました。このまち自体がさやちゃんをサポートしてくれています。」と笑顔で当時の気持ちをお話いただきました。

同じように何かに悩んでいる方に対してお母さんは“困っていることを発信することが大事”であると話し、今回の悩みについても「私が福祉ネットワークの方に直接伝えただけではありません。口に出して誰かに伝えることで誰かが『あれ？』と気づいてくれて、どこからか助っ人が現れるかもしれないと思います。」とのこと。「でも重要なのは、私が助けてもらっているような活動があるということ。活動がなければ発信してもつながることはなかったと思います。」

と、福祉ネットワークへの想いもお話いただきました。

さやちゃんが小学校にあがるとき、港南台ひの特別支援学校を知ったことがきっかけで港南区を選び、引っ越してきたさやちゃん親子。10年以上経った現在は地域のみなさんと地域のなかでささえあいながら暮らしています。

取材の最後にお母さんは「みんなが気にかけてくれる優しいまち。港南区から出たくない。」と、愛あふれる港南区への想いを笑顔で語ってくださいました。

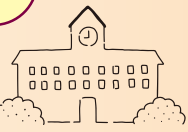
※1）レット症候群とは、女の子のみに発症する遺伝子が原因となる疾患。生後 6 ヶ月から 1 歳 6 ヶ月頃に発症し、それまでできていたことができなくなってしまう退行の症状などがある。病気の根本的治療は見つかっておらず、国の難病として指定。



学校から帰って来た、さやちゃんを広報委員が取材させていただきました。

横浜市立 港南台ひの特別支援学校

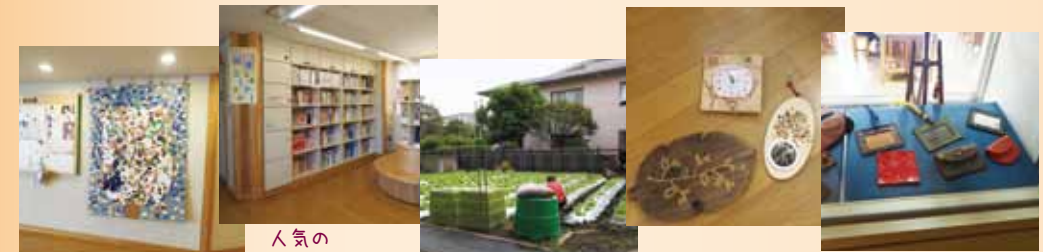
“人の集まる楽しい学校”を目指して



今回は特集①で紹介した彩花さんが、どのような学校に通われているのか。その魅力を知りたく取材をしました。

横浜市立港南台ひの特別支援学校には、小学部・中学部・高等部あわせて現在約 200 名の子どもたちが通学しています。少子化の現代に対し生徒数は毎年増えており、区内だけでなく近隣区からも通われています。

高等部では、就労に向けた授業の時間が多くあり、農業や陶芸、革細工、木工、縫工に取り組んでいます。校内に飾られた作品は、文化祭などで販売。真剣に取り組む生徒のみなさんの姿が、とても印象的でした。



廊下はまるで美術館！

人気の図書コーナー

校内には大きな畑が！

生徒の皆さんの作品の一部

学校には「人の集まる楽しい学校」とのコンセプトがあります。今回は、子どもたちと、地域のかけはしとなる『ひまわりボランティア』を紹介いただきました。みなさんもいっしょに人の集まる楽しい学校を目指していきたいませんか。

ひまわりボランティア募集中

活動内容：外出時の付き添い（近隣の公園や遠足など）
運動会や学校祭のお手伝い

年 齢：高校生～70 代の男女活躍中！

- ・ボランティア向け研修を年 2 回実施
- ・現在約 130 名の登録あり。企業に社会貢献としてお手伝いもしていただいています。

問い合わせ先：港南区社協ボランティアセンター



みんなで取材に行ってきました！

特集② ひとりをささえる仕組み 福祉ネットワーク

福祉ネットワークは、誰もが住みなれた地域において、孤立せずいきいきと生活できることを目的にした住民同士の助け合い事業です。地域住民のひとりひとりの困りごとに耳を傾け、共有や検討を行い、解決に向けて取り組むことで、住んでよかったと思う地域を目指します。

本号では 2 つの地区の福祉ネットワークをご紹介します。

上大岡地区

上大岡地区社協 福祉ネットワーク事業

ちょこボラ上大岡

開く上大岡でありたい

上大岡地区では福祉ネットワーク「ちょこボラ上大岡」として、昨年から活動を開始。自分たちの出来そうなこと、得意なこと、また趣味などを活かした隣近所の助け合いなどの“自分にちょこっとできること”を活動内容とし、現在も活動の流れなど区社協・ケアプラザと共に話し合いを進めています。



「ちょこボラ上大岡」の定例会議の様子

代表の高橋さんからは、「ボランティア活動を通して、地域の皆様が仲良く相互に助け合えるように、人と人をつなぐ橋渡しができたらとの想いで活動をしています。」と活動への想いを伺いました。

みなさまのあたたかな想いが地域の助け合いの輪をつくっていきます。今後に大注目です。（高橋さん：写真向かって一番左）



「ちょこボラ上大岡」のみなさん

日下地区

日下地区社協 福祉ネットワーク事業

ピープル日下

誰もが“自分のできる時間にできることをする”それでいい

日下地区では、「ピープル日下」の名称で福祉ネットワーク事業を展開しています。平成 16 年の立ち上げ時 27 名だったメンバーも現在は総勢 68 名に。地域住民からの依頼には剪定・草取りや障子の貼り換え、障害のある子どもの送迎など多岐にわたり、前年度は延べ 182 件の活動をしました。



チーム、一顧となってやるから楽しい！

ある日は庭木の剪定依頼に対しボランティア約 20 名で活動をするこも。みんな話しながら活動することで自然とその場が情報共有の場になっています。

とにかく楽しそうなみなさんにその秘訣を伺うと「誰もが自分のできる時間にできることをする。それでいいんです。ボランティアは嫌々やっても意味がない。他人のためにやるというより、自分のためにやる。そんな気持ちが強いのかもいないね。」と、代表の望月さん。実行委員のみなさんからも「楽しいからこそ続けられる。私たちはひとつのチームなんです。」と、みなさんの信頼関係も伺うことができました。



剪定ボランティア活動の様子